学びの丘

根室市立落石中学校
教務部便り　　第２号
2013 年 4 月 20 日

第１回目の参観日です。

お子様は新しい学年として新たな気持ちでスタートを切れましたでしょうか？

早速，各学年では家庭学習の取り組みがスタートしています。

2，3 年生では昨年度に比べて取り組む量が増えたり，学習内容が充実したりと自らの課題を意識して家庭学習に取り組む様子があるそうです。

また，1 年生も今週から家庭学習の取り組みをスタートさせました。

この時期で大切なのは「継続すること」です。家で学習の「ルール」を作り，毎日続けることで習慣化されていきます。

この「習慣化」が学習の定着となり，しいては学力の向上へと結びつきます。

ぜひ，本日の懇談会でも家での学習の様子を交流し，家庭での学習支援の参考にして頂ければ幸いです。

今回のテーマ　評価・評定

生徒の成長を評価する「観点別評価」

学校で学んだ成果は「評価・評定」という形で，通知表に示されます。

今回は，その評価・評定の基本的な流れについてお知らせします。

各教科では各学年で，ここまで身についてほしいという「規準」が単元（題材）ごとに決められています。

その規準が「できた」場合は「**B**」がつき，「できなかった」場合は「**C**」がつきます。「**A**」は「できた」中でもより十分である場合につきます。（3 段階）

観点の**「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」**（国語科は 5 つ）ごとに評価します。

通知表で，その教科が AAAA とついていれば，その学期の学習内容がすべて十分な力を身に付けたと評価しています。

これらの規準を判断するために，定期テストや，授業の様子，作品や自己評価など教科によって様々な評価方法を用い，客観性のある評価となるよう取り組んでいます。

「評定」はその教科の総合評価です

それぞれの評価（観点別評価）をもとに学期ごとにつけられるのが『評定』です。(1~5 の 5 段階でつきます)

簡単に言えば，A が多ければ「**4**」～「**5**」，C が多いと「**1**」～「**2**」，B が多ければ「**3**」と評定がつきます。

（例：ABBA で 4，CCAC で 2 など）

「5」の条件は，十分理解している「A」の中でも，特に高い理解がある場合，「1」の条件は，理解できていない「C」の中で，一層努力が必要と判断した場合です。

昨年度までは，1 学期，2 学期と学年末の評定を示していましたが，3 学期のがんばりが見えづらいということもあり，本年度より 1，2，3 学期の評定と，総括として学年末を示すことにしました。

これらの評定は「内申点」として，高校入試の合否の判定材料にもなる重要なものです。（内申点は **3 年間の「学年末」**の評定がもとになります）

だからこそ，「3 年生になってから慌てて勉強するのではなく，1 年生の頃から，しっかり勉強に取り組みましょう」と呼びかけているのです。

もっと詳しく教えて…という生徒，保護者の皆様は各担任までご相談下さい。